

児島湾沿岸農地防災事業

締切堤防(潮止工区2-1)工事

本事業は、岡山市街地と児島半島を南北に結ぶ児島湾締切堤防の耐震対策工事です。本堤防は、昭和30年代に完成し、淡水化した児島湖から明治時代より始まった干拓地へ供給する農業用水や岡山県南地域の重要な交通路を確保するなど、地域の生活基盤を支える重要な施設となっています。

東日本大震災を契機に本堤防の耐震性能を調査したところ、大規模地震が発生した場合には、液状化による堤防の沈下や排水樋門の損壊が想定され、津波や高潮が児島湖に浸入することに

よる周辺干拓地や地域住民への甚大な被害が危惧されました。そのため、締切堤防部においては20m以深の基盤層まで二重締切鋼矢板を打設し、堤防を強固な構造とします。本工事の施工延長は潮止工区の内18mで、現在は硬質地盤クリア工法により鋼矢板の打設を行っています。施工ヤード付近には岡南飛行場があり、空頭制限下でのクレーン施工となることに加え、堤防上の一般通路に挟まれていることから、第三者災害防止に特に注力しています。

今後も安全管理を徹底し、無事に竣工できるよう、工事所一丸となって工事を進めていきます。



監督職員からのエール

児島湾締切堤防は、現状のままでは、南海トラフ地震により堤体が最大約2m沈下し、津波の水位が堤防高を上回り海水が浸入するため、本工事では締切堤防に二重の鋼矢板を打設し、地震後に発生する津波の越波を防止するものです。

本工事の鋼矢板打設区間には、締切堤防の築堤時に施工された捨石層があるため、「硬質地盤クリア工法」を採用し、大型クレーンを配備して施工しています。締切堤防は、岡山市と玉野市を結ぶ一般交通の道路(通行量1万5千台/日)や遊歩道としても利用されています。また、近傍に岡南飛行場があるため、空頭制限が設けられている等、鋼矢板打設の現場条件としては厳しい面があります。

風の強い日もありますが、現場代理人の中堂菌さんには、クレーン作業の安全管理には十分配慮して頂いています。このまま無事故無災害で工事が完成することを願っています。

監督職員

(写真左) 前中国四国農政局岡山南土地改良建設事業所
専門技術指導官 佐山えり子

現場代理人

(写真右) 株式会社奥村組
児島湾潮止締切工事所 中堂菌 隆

